

日本 100 名谷 笛吹川源流 東沢～釜ノ沢 甲武信岳（個人山行）

（報告）FJ

◎期日：2023 年 8 月 12 日（土）～13 日（日）

「いつか日本 100 名谷の笛吹川の沢登りをやろう」との掛け声で、K さん、F さん、私の 3 人パーティーで沢登りを実践してきた。前回 5 月の源次郎沢では、自分がトップで通して登りきり、最低限のロープ操作は身に着け、いくぶん不安は減りました。そして 8 月のお盆休みに、目標としていた笛吹川源流にチャレンジする日がきました。

前日の夕方、日が暮れるところに、西沢溪谷入口の駐車場に車を乗りつけ、近くに空きスペースを探して、3 人それぞれツェルト泊をしました。スーパーのお弁当と缶ビールでひっそりと宴会です。

翌朝 4 時に起床、天気は良さそう。朝食と身支度を整え、ツェルトをしまい、5 時 40 分に出発。20 分ほどで東屋のある広場に出ました。トイレで水を汲もうと考えていましたが、「沢水のため飲料に使用できません」と張り紙があり、しかたない自己責任で飲みます、とプラティパスに 1.5 リットルを確保しました。近くに石碑があり、秩父のパイオニアとも称される、大正昭和期の登山家・文筆家、田部重治の「笛吹川を遡る」の文が刻まれており、溪谷の美しさを表現した文章を味わいました。少し進むと西沢と東沢の分岐になり、吊り橋がかかっている。看板が「安易に東沢に入ってははいけません」と警告しています。改めて気を引き締めて東沢への道を進むと、白い石がゴロゴロした河原が広がります。10～20 人くらいのグループがテントを多数張っていて、寝起きの大人子供の声がする中を、我々は進んでいく。「沢登りですか？」とひとりの男性から声をかけられました。

ピンクテープに導かれ、川の左岸に沿ってつけられた山道を進みます。ときどき斜面の崩壊地や岩場など、けっこう危険な個所が出てきて慎重に超えます。次第に道は高度を上げ、川の水面がだいぶ下方に遠くなってしまい、道を間違っていないか不安になりましたが、ガイドブックには「ホラノ貝を左岸高く巻いた道」と書かれており、正しいルートらしいと安心しました。「ホラノ貝」は地図で崖の記号があるが、あまりよく見えず、また「山の神」も見落として、よくわからず、しかしようやく道が再び川に降りて、ここから沢歩きとなりました。全体的に白っぽい岩質の広めの谷で、川の水は澄んで青緑に輝き、丹沢よりも明るい雰囲気。これが東沢かー、美しい。



沢の流れを縫うように進む

しばらく進むと前方に巨大な岩壁が見え、近づくと垂直に高さ20mほどあろうか露出した岩肌が大迫力でした。続いて進むと、まるで白砂のビーチのように見えて、実は硬くて滑らかな白い石肌の浜が出てきて、脳が錯覚させられるようでした。さらに先へ進むと、川の両岸に交互に滝が現れ「乙女の滝」、「東のナメ滝」、「西のナメ滝」と次々と地形が移り変わって楽しい。ここまで地図上の距離は半分くらい来て、ずっと緩やかな沢歩きで楽しかったですが、標高がまだまだ低い。あと1,000mも登ると思うと、この先の険しさがやや心配です。



迫力の岩壁（左下にFさん）



白い石肌のビーチ



西のナメ滝

二つの沢が合流する「釜ノ沢出合」に出ました。ここが東沢の終点となり、直進すると金山沢ですが、我々は右方向の釜ノ沢に進みます。そのすぐ先で左90度に向きを変えた岩盤から流れ落ちる「魚留（うおどめ）の滝」が現れました。滝つぼのエメラルドグリーンの水をたたえた淵が美しい。ルート目印に従い、滝の左の滑りやすいフェースを登り、樹林に上がりました。ガイドブックの必要装備に10m補助ザイル、と書かれていたのは、この魚留の滝のスラブのためと思われました。



「釜ノ沢出合」ここから右が釜ノ沢



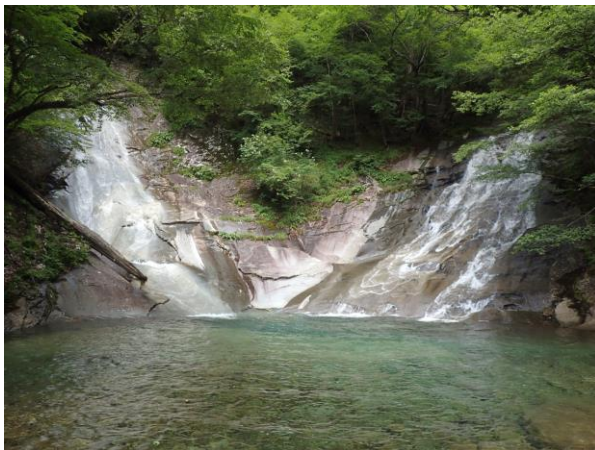
「魚留の滝」の左側のフェースを登る

続いて4段の釜が連続するナメ滝もきれいでしたが、その先の「千畳のナメ」が美しさマックスでした。清らかな水流が、幅広い岩の河床の上を薄く音もなく静かに流れ続け、それがまっすぐに先まで続いていました。兩岸の森に包まれ、流れの真ん中を歩いて、今までに見たことのない光景に感動でした。「アトラクションができるね、次回来るときは浮き輪だね、もっと楽に来れるところだったら家族連れていっぱいの人気だろうね」と、我々の脳内には豊島園のウォータースライダー滑り台のイメージが湧いていました。

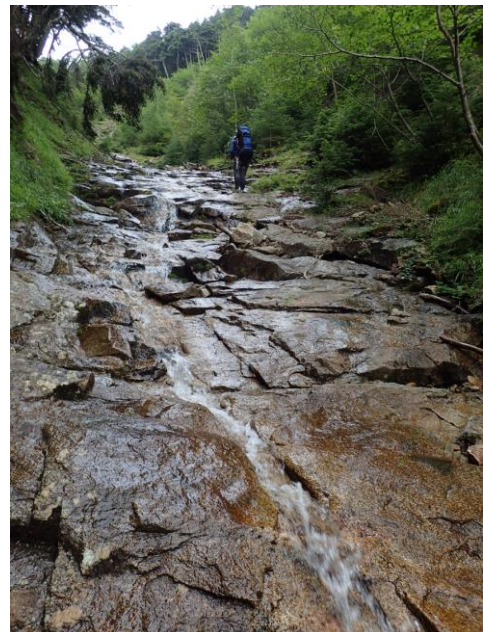


「千畳のナメ」 流れの中を歩く

西俣が合流する「両門ノ滝」に来ました。二方向から流れ落ちる立派な滝です。我々は右側の釜ノ沢へ登ります。近辺には焚火の跡が多数あり、沢登り&キャンプという人もいることを知りました。傾斜が急になり、暑くなる度に沢の水を腕や胸にも浴びて冷やしながら登ります。やはり体力が必要だと思い知らされず。時々、地図とスマホで地形を確認してルートを見極めながら、ついに登り切りました。甲武信小屋の前のこんなところに出てくるんだ、という驚きとともに達成感。3時半到着、ちょうど10時間でした。



「両門ノ滝」



岩肌を細く流れる沢。登りが長い



終盤のガレた斜面を登る。霧が出てきた。

甲武信小屋のお兄さんに、テント3名×1泊をお願いすると、受付はあとでいいから先に場所確保しなさい、と優しくしてもらった。一人1000円でした。台風接近中のせいか、三連休にもかかわらず小屋泊のお客は3組ほど。テントも我々のほかに2張りしかい wasn't でした。ツエルトは、ストックを使わず立木などを利用して張る方法をKさんに教わりました。ストックよりも強度があり、天井を高くできたり、設営も簡単、メリットばかり、大変勉強になりました。本日のミッションが終了し、小屋の前のテーブルで3人お疲れ様〜と祝杯をあげました。

翌朝、5時半頃に起床、小屋の前から日の出を拝み、朝食は後回しにして甲武信岳山頂へ。昨日の疲労で足が重い。まだ台風の影響は感じられず、富士山、国師が岳、金峰山、ハケ岳などがよく見えました。



甲武信小屋の前で日の出を拝む



甲武信岳山頂から富士山

小屋に戻って朝食と身支度をしツエルトを撤収。小屋のお兄さんが「午後から天気崩れるよ。今はこんなに良い天気でも、あっという間に変わるよ」との話で、やはり早めに下山したい。木賊山（とくさやま）を經由して戸渡尾根を下りました。分岐で徳ちゃん新道 or 近丸新道の選択を悩み、今回は近丸新道にしたところ、水晶の破片が落ちていたり、トロツコの廃線跡があったり、とても楽しめる道でした。

これまで継続的に同じ3人パーティーで実践を重ねてきて、今回、ひとつの目標が果たせて大変充実した経験ができました。笛吹川はまた格別に良い沢でした。Kさん、Fさん、ありがとうございました。

《コースタイム》

1日目：西沢溪谷入口 5:40～吊り橋 6:45～大岩壁 9:30～西のナメ滝 10:10

～釜ノ沢出合 11:05～魚留ノ滝 11:10～千畳ナメ滝 11:20

～両門ノ滝 12:15～甲武信小屋 15:40

2日目：甲武信小屋 5:15～甲武信岳山頂 5:25-5:50～甲武信小屋 6:00

甲武信小屋 7:00～木賊山 7:45～分岐 8:40～近丸新道～西沢溪谷入口 10:40